



SECOM

21E-11-1

SECOM

株主通信 12<sup>2012年</sup><sub>月</sub>

セコム株式会社

第52期中間報告書 | 2012年4月1日から  
2012年9月30日まで



## 目指すは 「気づいたらセコム」と 思われる会社に

過去最高の業績、重要な意思決定、  
セコムが目指すことについて、  
社長の前田修司から  
ご説明させていただきます。

前田 修司

セコム株式会社 代表取締役社長



**今**年の5月と7月に開催した  
ALL SECOM「セコムフェア2012」には、  
5会場合計で6万443名のお客様が来場されましたね。

まず、「セコムフェア2012」を開催し、多くのお客様  
にご来場いただいたことについて御礼申し上げます。

多くのお客様にお越しいただいた理由は、「フュー  
チャーゾーン」で披露した、セコムが考える近未来の「安  
全・安心」の社会と、セコムのサービスイメージが斬新  
だったからではないかと思います。

また、「人が人を呼ぶ」と言いますが、フェアをご覧に  
なった方が同僚や関係者の方々にもご紹介していただ  
けたようで、その効果もあったのだと思います。

超高齢化や自然災害は、企業戦略や事業継続を策定  
する上で外せないキーワードです。そのため、ご来場い  
ただいた皆様から高いご関心をいただきました。

**上**半期の連結売上高・営業利益・経常利益・純利益の  
すべてが過去最高となりました。

要因は何だとお考えですか。

大きな要因は組織と社員が活性化してきたことだと  
思います。社長に就任して以来、私が特に力を注いでき  
たのは組織と社員を活性化させるために、「方向性」や  
「考え方」を全社員に共有してもらうことでした。

たとえば、「セコムフェア2012」ではお客様への感  
謝の気持ちをお伝えし、セコムの近未来のビジョンを体  
感していただくことを目的にすると同時に、セコムグ  
ループ208社、約5万人の社員に対する「セコムグル  
ープはこういう方向へ向かって進んでいく」という宣言で  
もありません。

また、2年前に、セコムグループの総力を結集する“ALL SECOM”を宣言しました。これはセコムグループの7つの事業の連携強化によってシナジーを高めることを目的にしていますが、真意は事業の垣根を越えて、“ALL SECOM”という一つの事業なのだという「考え方」や「意識」を共有してもらうことにありました。

さらに、サービス・システムの開発や提供も組織と社員の活性化につながっています。

目標が共有され、意識が統一され、新サービスが誕生したことが、上半期の好業績につながったのだと思います。

**今**後の事業展開について二つの意思決定をされました。一つはデータセンターを“サービスセンター”に変えていくことです。

セコムのデータセンターサービスはこれまでも、単なる設備貸しではなく、有人監視や必要に応じて現地対応を行うなど、サービスの提供拠点としてきました。

また、セコムがセキュリティをはじめ、各種サービスでお預かりする情報には、ご契約先の重要な情報があります。私たちは、ご契約先の安全確保のために、その情報の使用許可を得ているからこそ、サービスの提供ができるのです。

今後は、最高クラスのセキュリティでそうした情報を厳重にお預かりするとともに、さらに強化された情報基盤をもとに、より付加価値の高いサービスを提供できるよう、データセンターを“サービスセンター”に変えて運営してまいります。

**も**う一つは、「セコムフェア2012」で描かれたサービスを実現していくことです。

15年後の日本社会はどうなっているのか、私たちは何をすべきかを考え、「セキュリティ」「防災」「超高齢社会」「環境」の切り口で革新的なサービスを実現していきます。

セコムグループが提供するサービスはデータセンターという基盤があってはじめて可能となります。

今年10月、セコムが日本最大規模のデータセンターを保有している(株)アット東京を子会社化し、日本最大のデータセンター事業会社になったのは、今後の革新的なサービス提供を行うためにデータセンターは不可欠であると考えたからです。

今後も国内はもちろん海外にもデータセンターを開設することも視野に入れながら、「セコムフェア2012」でご披露したサービスの実現を目指して取り組んでいきます。

**こ**れからセコムが目指すのは「気づいたらセコム」とおっしゃっていますが、この意味を教えてください。

セコムでは「困ったときはセコム」と社会やお客様から言われる会社になることを目指してきましたが、今後はさらに「気づいたらセコム」と思っただけの会社になりたいと思っています。

たとえば言うならば、セコムの「安全・安心」を提供することで、生活する上で必要不可欠な空気のような存在になりたいということです。そうなれるよう、「安全・安心」に「快適・便利」を加え、社会に必要なサービス・システムを、“ALL SECOM”で構築してまいります。

## 広がり、深まる、「安全・安心」のネットワーク

### セキュリティサービス事業

セコム(株)を中心に、企業・家庭・個人向けのセキュリティサービスを提供しています。企業向けには、オンライン・セキュリティシステムをはじめ、大規模施設向け安全管理システム、安全商品、常駐警備、現金護送を提供しています。

家庭向けには、「セコム・ホームセキュリティ」をはじめ、マンション向けセキュリティ、安全商品を提供しています。2011年12月に発売した「セコム・ホームセキュリティ G-カスタム」は、東日本大震災の教訓から生まれた、個人情報をお預かりする機能をはじめ、生活の「便利」につながる機能を多数搭載しています。



個人向けには、屋外用携帯緊急通報システム「ココセコム」を提供しています。位置情報

検索機能と緊急通報機能を備え、いざというときは緊急対応員が駆けつけます。現在は屋外を移動する人・車・物などに用途を広げ、

安全を提供しています。

このほか、システムのセットや解除といった操作が不要となる次世代型オンライン・セキュリティシステムなど、これまでのセキュリティの概念を一新するシステムを次々と開発し、社会の「安全・安心」ニーズに応えています。

### 防災事業



能美防災(株)は、ビル、地下街、文化財、プラント、トンネル、船舶、集合住宅などに火災報知設備

や消火設備を提供し、人命と財産を守っています。特長は、調査・診断から、研究開発、設計、生産、施工、メンテナンスまで一貫責任体制で防災システムを提供していることで、社会から絶大な信頼を得ています。

今後は、セコム、能美防災、4月にグループ入りしたニッタン(株)の三社の力を結集して、従来の防災事業の枠を超えた、自然災害にも対応できる次世代型防災システムの開発に取り組んでいきます。

### メディカルサービス事業

セコム医療システム(株)を中心に、医療、介護・福祉、健康・予防の分野でトータルなメディカルサービスを提供しています。

医療分野では、訪問看護と薬剤提供を柱とした在宅医療サービスをはじめ、セコムの提携病院やクリニックの運営支援、遠隔画像診断支援サービス、電子カルテを提供しています。

介護・福祉分野では、訪問介護と通所介護サービスの提供、シニアレジデンスと介護付有料老人ホームを運営しています。



健康・予防分野では、会員制健康クラブや電話健康相談サービス、予防医療サービス、オリジナルの健康食品の販売を行っています。

メディカル事業の国際展開も本格化し、2013年にはインド・バンガロールにセコム、豊田通商(株)、インドの企業グループの三社共同で病院を開設します。また、2015年には中国・上海で現地企業と合弁会社を設立し、シニアレジデンスを開設します。

### 保険事業

セコム損害保険(株)は、ホームセキュリ

ティを導入されている場合に保険料が割引となる「セコム安心マイホーム保険」や、事故現場にセコムの緊急対応員が駆けつける「セ



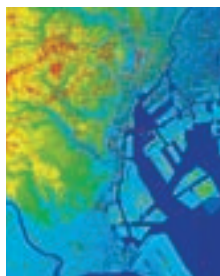
コム安心マイカー保険」など、セコムグループならではのユニークな保険を提供しています。また、自由診

療・公的保険診療を問わず、かかった治療費を補償するガン保険「自由診療保険メディコム」は、その商品特性が支持され、加入者が増え続けています。セコム損害保険は、セコムグループの各事業と保険事業の融合により、新しい保険商品の創造を目指しています。

### 地理情報サービス事業

(株)パスコは、人工衛星や航空機などを使って地理情報を収集し、処理、解析した上で、用途に応じて加工した空間情報を官公庁や自治体、企業に提供しています。

パスコの強みは、情報の収集、処理、活用に



において高い技術力と実績を持っていること。国内ではインフラの維持管理や固定資産評価業務などの行政サービスを支援することで、暮らしやすい街づくりに貢献しています。また、企

業のマーケティング戦略や事業継続計画(BCP)の策定支援などを通じて企業経営をサポートしています。また、海外でも積極的に事業展開し、最近では、アフリカ諸国の森林保全や東南アジアにおける3次元デジタル地図情報の取得、地図制作などを行っており、世界の環境保全、防災、減災に力を入れています。

### 不動産開発・販売事業

セコムホームライフ(株)は「安全・安心で高品質な住まい」をコンセプトにしたマンションを開発し、「グローリオ」のブランドで販売しています。特長は、最新のセキュ



リティシステムの導入、充実した防災対策、入居後のお困り事に24時間365日体制で応える「グローリオサポート24」の提供です。

9月に竣工した「グローリオ越谷ステーションタワー」は地下1階、地上29階建て、総戸数421戸の高層マンションで、セキュリティはもちろん、災害時に電源を一定時間確保する非常用発電機や非常用水、防災倉庫、災害用トイレなどを備えた、セコムならではの「安全・安心」のマンションです。

### 情報通信・その他の事業

セコムトラストシステムズ(株)は、情報

セキュリティと大規模災害対策を柱にした、情報通信事業を展開しています。

情報セキュリティでは、外部との不正な通信を監視する「セコム・サイバー攻撃対策サービス」や、システムが異常を検知した場合、情報セキュリティのプロが駆けつけ、現地対応を行う「初動オペレーションサービス」を提供しています。

そして、お客様の大切な情報をお預かり

する「セキュアデータセンター」サービスも提供。需要が高まり続ける事業継続計画(BCP)策定支援にもトータルに対応します。

10月には(株)アット東京がグループ入りし、セコムグループは日本最大規模のデータセンター事業会社となりました。

また、有事の際には事業を継続、早期再開させるために、国内外の社員や家族の安

否や、取引先の状況をいち早く把握する「セコム安否確認サービス」シリーズを提供しています。



セコムトラストシステムズは、高度化・複雑化する情報ネットワーク社会の中で、お客様のあらゆるニーズに応えています。

## 東京電力(株)傘下の(株)アット東京を子会社化 国内最大規模のデータセンターで情報基盤を強化

10月31日、セコムは東京電力(株)のグループ会社である(株)アット東京の発行済普通株式の50.882%を取得し、アット東京はセコムの子会社となりました。これに



セコムが運営する堅牢なセキュアデータセンター

より、セコムグループは従来のセキュアデータセンターと合わせ、総延床面積約23万㎡の日本最大のデータセンターを保有することになり、「社会システム産業」の

構築に不可欠な情報基盤として強化していきます。

セコムグループで情報系事業を担うセコムトラストシステムズ(株)では2000年からセキュアデータセンターを開設し、現在は複数カ所に、総延床面積約2万㎡のデータセンターを保有し、国内最高水準のデータセンターサービスを提供しています。そして、2013年10月には約7,000㎡のデータセンターの開設を予定しています。

一方、アット東京は、国内最大規模の総延床面積20万㎡超のデータセンターを有し、電源供給の安定性・セキュリティなどにおいても最高品質を誇ります。

今後はこれらのデータセンターを基盤に、情報の安全管理だけでなく、セキュリティ、災害・高齢化・環境対策の分野で高い付加価値と安全性を合わせ持つサービスの創出を“ALL SECOM”で取り組んでまいります。

## インド初、日本企業が運営する病院を開設 セコム、豊田通商(株)、現地企業が共同で病院運営

セコムは、セコムグループのメディカル事業を担うセコム医療システム(株)とともに、2013年春にインド南西部にあるカルナータカ州の州都、バンガロールに総合病院を開設することになりました。病院の開設にあたっては、セコム医療システムが40%、豊田通商(株)が25.4%、現地企業であるキルロスカが34.6%を出資する合併会社を設立しており、病院運営を手がけていきます。

近年、世界各国において医療格差の解消や医療の質の向上など、医療の整備が求められていますが、これはインドでも同様です。

セコム医療システムは、在宅医療、ネットワーク医療、介護施設などに加え、日本国内で18の提携病院とともに地域に根ざした高品質なメディカルサービスの提供を行っています。また、医療安全やリスクマネージメントにも積極的に取り組んでいます。

今回、セコムのメディカル事業で初となる海外での病院開設にあたっては、これまでにセコムグループが日本国内で培って



インドに開設する新病院の完成イメージ

きたノウハウを活かし、高品質で効率的な病院運営に努めるとともに、今後はインドでの積極的な病院展開などに取り組んでまいります。

## 地域連携と防災がテーマの介護付有料老人ホーム 「アライブ世田谷代田」を開設

11月1日、セコムグループで介護付有料老人ホームの運営を手がける(株)アライブメディケアは、9カ所目となる介護付有料老人ホーム「アライブ世田谷代田」を東京都世田谷区にオープンしました。

現在、介護・福祉施設の需要とともに、地域との共生も重要なテーマとなっています。また、大規模災害時でも、ご入居者に安心していただける環境づくりも必要です。

「アライブ世田谷代田」はこのようなニーズに応えるべく、世田谷区との地域連携により、ホームが満室の場合、入居を希望される世田谷区代田2丁目在住の方に優先的に入居の順番をご案内する「優先入居権」を提供。近隣住民の方にこの権利を提供するのは日本初の取り組みとなります。



セキュリティ、防災、介護のノウハウを集めた「アライブ世田谷代田」

また、世田谷区と災害時における協定を結び、災害発生時に、避難所に避難されている要介護者の方を状況に応じて受け入れるほか、長期停

電時には外部電源車により厨房機器に電源を供給し、ご入居者はもちろんのこと、可能な限り地域の方々にも温かい食事を提供します。

アライブメディケアは、セコムグループのノウハウを活かした介護付有料老人ホームを運営してまいります。

## セコムの新テレビCMが完成 「世界のALL SECOM」篇

セコムの新テレビCM「世界のALL SECOM」篇が完成し、10月15日からセコムの提供番組であるテレビ朝日系列「報道ステーション」、TBSテレビ系列「ぴったんこカン・カン」、BS朝日「世界の船旅」で放送開始となりました。

今回のテレビCMは、2010年1月から放送した「世界の街角」篇、2011年10月から放送した「世界の笑顔」篇に続き、セコムの国際事業展開を紹介するシリーズの第3弾です。

現在19の国と地域で事業を展開するセコムグループ。今回



のテレビCMでは、その中からイギリス・ロンドン(セキュリティ事業)、中国・上海(メディカル事業 シニアレジデンス開設)、インド・バンガロール(メディカル事業 病院開設)、ブラジル・サンパウロ(地理情報サービス事業 航空測量)を取り上げて国際事業の広がりを紹介しています。

国境を越えて「社会システム産業」の実現を目指していくセコムグループの姿をぜひテレビCMでご覧ください。

<写真上から> イギリス・ロンドン(セキュリティ事業)  
中国・上海(メディカル事業 シニアレジデンス開設)  
インド・バンガロール(メディカル事業 病院開設)  
ブラジル・サンパウロ(地理情報サービス事業 航空測量)

## 防災、環境保全、街づくりのために パスコ独自の計測・解析技術を創出する

### ■ 今では衛星事業も展開する 空間情報会社ですね。

パスコは、人工衛星や航空機などを使って空間情報を収集し、その情報をお客様のニーズに合わせて処理、解析して、提供しています。この空間情報は、防災、環境保全、都市計画、企業の経営支援など、さまざまな分野で活用されています。2007年に打ち上げられたドイツの合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X」の撮影データの販売権を取得して以降は、地震や台風などの状況把握、地球温暖化による海面上昇や氷河湖の拡大のモニタリングなどを行っています。

### ■ 研究開発センターの役割は何ですか。

パスコ独自の新技术を創出することです。全社的に取り組むテーマについては、センターに主要メンバーを集めて研究開発を進めています。

また、2009年から、全社の技術者の技術力向上とスペシャリスト育成を目的に、テクニカルフェロー制度をスタートしました。全社の技術者により、毎年、100件以上にもおよび研究開発が活発に行われ、当社が目指す「技術立社」に邁進しています。

### ■ 研究中の「自動図化」についてご紹介ください。

自治体などでは固定資産の評価を行うとき、新しく建物が



セコムが常にセキュリティ業界をリードし続けてきた理由は、独自の研究開発体制で、新しいシステムを世の中に送り出してきたことにあります。今回は、セコムグループの地理情報サービス事業を担う(株)パスコの研究開発センターをご紹介します。

(株)パスコ 取締役  
研究開発センター長 島村秀樹

Hideki Shimamura

建ったか、取り壊したかで、土地にかかる税額が変わってきます。その違いを新旧の航空写真を比べて探し出すことは大変手間と時間がかかります。そこで、家屋の1棟1棟の変化を自動的に画像で認識できる技術を開発しました。この認識技術をベースとして、人手を介さずに建物や道路等の地図を作成する「自動図化」技術の研究を行っています。

### ■ グループの総力を結集しALL SECOM体制の確立を目指しています。 事業間の連携についてどうお考えですか。

以前、位置情報提供システム「ココセコム」の専用端末を所持した人や車の位置を表示できるデジタル地図の開発をセコムと行いました。これは当社の空間情報技術が活用された事例です。当社の保有している技術やノウハウは日々向上しているのので、セコムグループ各事業で活用していきたいと思っています。



## 高温度・高エネルギー・高感度の 全隊員が均一で高品質な安全を提供する

**常駐警備の役割は何ですか。提供体制と業務についてもお聞かせください。**

機械にはない人間の長所である判断力や対応力を最大限に発揮して、施設を利用される人々と施設の安全を確保すること、それが常駐警備員の使命です。

我々、成田国際空港第二旅客ターミナルビル派遣隊では主に、出発ロビーと到着ロビーの警戒、立哨、巡回と、防災センターでの監視、空港関係者の出入管理を行っています。常駐警備員の配置個所は数多くありますが、全隊員がどこに配置されても均一で高品質な安全を提供できるように訓練を徹底しています。

**お客様に接することの多い立哨業務ではどんなことに気を付けていますか。**

お客様と接するときのモットーは、「忘れるな、警戒心と笑顔の対応」です。海外から来られた方が最初に言葉を交わすのは我々かもしれません。ですから、我々の対応一つで日本の第一印象は決まるという意識を持って丁寧に、そして笑顔で接しています。また、心停止をはじめとする救急時に備え、AEDの操作と心肺蘇生法は全員がマスターしていますが、さらに上級救命技能認定の全員取



セコムのセキュリティシステムは、安全のプロによるサービスがその質を決めます。今回は、大規模施設を守るために、人間の判断力や対応力を最大限に発揮する常駐警備の精鋭を揃えた派遣隊をご紹介します。

首都常駐統轄本部 第三業務部  
司令 菅澤昌哉

*Masaya Sugasawa*

得を目指しています。

**お客様から感謝された事例をご紹介します。**

「大事な手荷物がなくなった」と声をかけられたときに、お手伝いをして「ありがとう」と言われたことは数えきれません。人の役に立ったときはうれしく、仕事にやりがいを感じます。

**隊員をリードする司令としての目標は？**

魅力ある人間になること。社内はもちろん社外からも「あの司令に任せておけば大丈夫」と信頼されること。それと、「高温度・高エネルギー・高感度」の組織にすること。そうであれば高品質の安全は提供できませんから。この3つのことをいつも意識しながら行動するようにしています。



## ALL SECOM「セコムフェア2012」が閉幕 6万人超のお客様に近未来の「安全・安心」の姿をご紹介します



セコム創立50周年を記念して、5月と7月、仙台を皮切りに、名古屋・福岡・大阪・東京の順でALL SECOM「セコムフェア2012」を開催しました。

### 5会場合計6万443名のお客様がご来場

創立以来お世話になってきたお客様への感謝の気持ちをお伝えするとともに、セコムが考える近未来の「安全・安心」な社会をご紹介します。セコムが考える近未来の「安全・安心」な社会をご紹介します。セコムが考える近未来の「安全・安心」な社会をご紹介します。

各会場にはご契約先や株主の皆様をはじめ、多くのお客様をお迎えし、5会場11日間、合計で6万443名のお客様に、現在、そしてこれからのセコムグループの取り組みをご紹介します。

### 社会の「安全・安心」に“ALL SECOM”で応える

「セコムフェア2012」では、セキュリティだけでなく、防

災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報系、不動産事業の取り組みをご紹介します。私たちを取り巻くあらゆる場面でセコムグループがお手伝いできることをご紹介します。また、セコムが考える近未来の「安全・安心」な社会を「セキュリティ」「防災」「超高齢社会(メディカル)」をテーマに最先端技術を使った映像でご紹介しました。

セコムグループはこの50周年を一つの通過点と捉え、セコムグループ一丸となり、“ALL SECOM”でさらなる「安全・安心」な社会の構築に邁進してまいります。

▲写真左から…  
東京会場でのテープカット  
セコムが誇る画像認識技術をご紹介します  
高い関心を集めたメディカル事業  
セコムが考える近未来の「安全・安心」な社会を披露

## タイ全土にセコムのセキュリティシステムの普及を 実現に向けて、1,600名の社員が、明るく、熱く、全力疾走



昨年、半世紀に  
一度と言われる大  
洪水に見舞われたタイ。

そのとき、セコムグループのタイ  
セコムピタキイ(株)(以下、タイセ  
コム)は、浸水した工業団地の複数  
のお客様から要請を受け、ボート  
に乗って巡回警備を実施。非常時  
でも平常時と同じようにお客様の  
安全確保に努めました。

そのタイセコムは、1987  
年にセコムと現地の大手企  
業グループとの合併で設立され、  
今年で創立25周年になります。  
四半世紀の歴史の前半は、セコム  
方式のオンラ  
イン・セキュ  
リティシステム  
の啓発期でし  
た。そして、タ  
イ経済の急速  
な成長にとも



セキュリティの中枢を担う  
タイセコムピタキイコントロールセンター



ない普及が加速し、  
オンライン・  
セキュ  
リティ  
システ  
ムの契  
約件数が大き  
く伸びるな  
ど、タイセコムはまさに  
ナンバーワンのセ  
キュリティ会社に  
成長しました。  
現在は、人口  
約600万人の  
バンコクに本社  
と3支社、北のチェンマ  
イや南のプーケット、  
ハジャイなど4都市に  
支社を配し、オフィス  
ビル・店舗と、日系企業  
や外資系企業の工場  
に、オンライン・セキュ

リティシステムのほか監視カメ  
ラシステムやアクセスコント  
ロールシステム、常駐警備サービ  
スを提供しています。

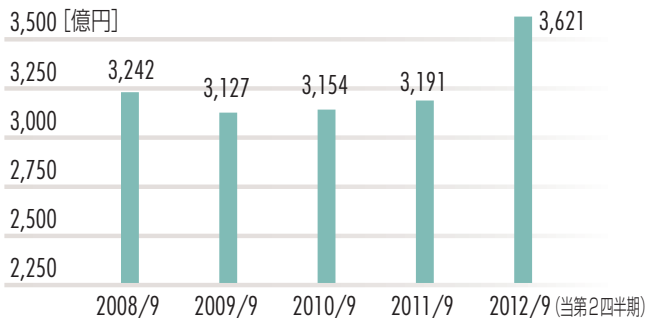
注目すべきは、政府施設をはじめとする重要施設、空港や高架鉄  
道、地下  
鉄などの公  
共施設、電  
力公社や  
郵便公社  
などの施  
設がご契約先であることです。この  
ことから明らかなように、「タイ  
セコムのセキュリティは高品質」  
という信頼をいただいています。  
タイセコムの社員約1,600名  
は今、タイ全土をセコム一色にす  
る「SECOMISE THAILAND」の  
スローガンを掲げ、明るく、熱く、  
全力疾走しています。



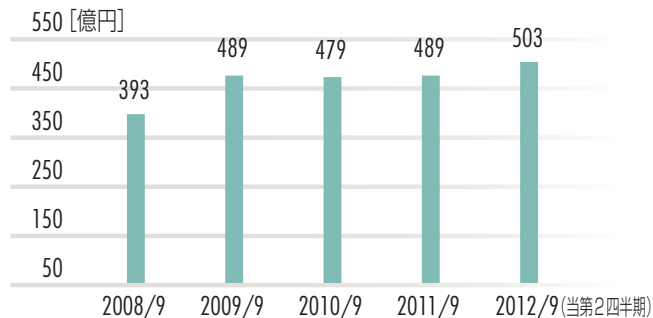
タイセコムピタキイの  
セキュリティスタッフ

## 連結決算 業績ハイライト — 第2四半期累計

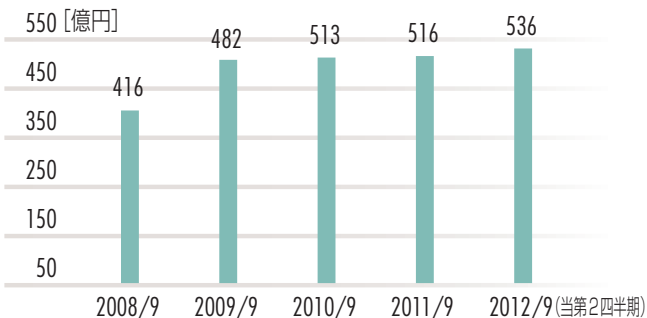
### 売上高



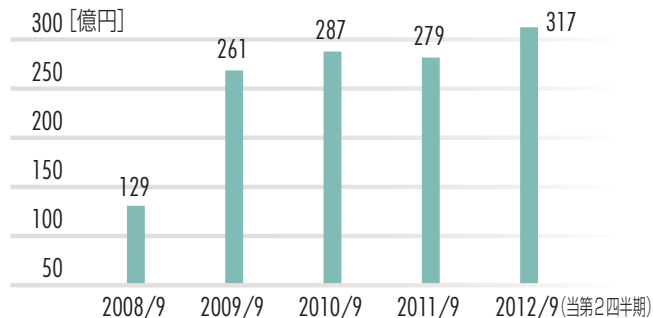
### 営業利益



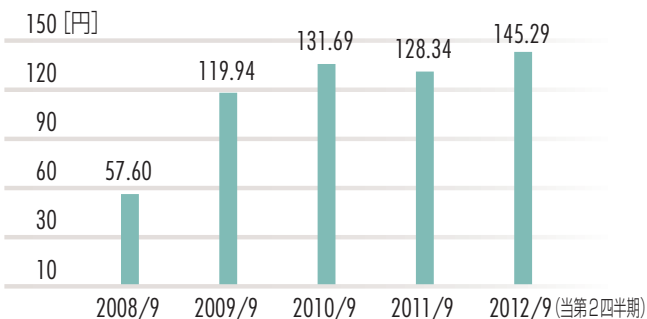
### 経常利益



### 四半期純利益

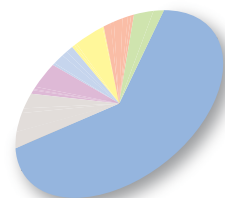


### 1株当たり四半期純利益



### 事業別売上高内訳 2012/9 (当第2四半期)

● セキュリティサービス事業	2,137 [億円]	59.0%
● 防災事業	487	13.5%
● メディカルサービス事業	205	5.7%
● 保険事業	175	4.8%
● 地理情報サービス事業	231	6.4%
● 不動産開発・販売事業	200	5.5%
● 情報通信・その他の事業	184	5.1%



# 連結貸借対照表(要旨) — 第2四半期末

2012年9月30日現在

<単位: 億円> \*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

## 資産の部

<b>流動資産</b>	<b>5,086</b>
現金及び預金	2,007
現金護送業務用現金及び預金	529
受取手形及び売掛金	708
未収契約料	219
有価証券	229
リース債権及びリース投資資産	153
たな卸資産	293
販売用不動産	273
繰延税金資産	127
短期貸付金	31
その他	512
<b>固定資産</b>	<b>6,055</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>3,039</b>
建物及び構築物	989
警報機器及び設備	694
土地	1,089
その他	264
<b>無形固定資産</b>	<b>257</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,758</b>
投資有価証券	1,699
長期貸付金	446
前払年金費用	193
繰延税金資産	161
その他	257
<b>繰延資産</b>	<b>0</b>
<b>資産合計</b>	<b>11,142</b>

## 負債の部

<b>流動負債</b>	<b>2,139</b>
支払手形及び買掛金	306
短期借入金	415
一年以内償還予定社債	69
未払金	229
未払法人税等	203
前受契約料	302
その他	611
<b>固定負債</b>	<b>2,165</b>
社債	79
長期借入金	90
預り保証金	360
退職給付引当金	161
保険契約準備金	1,307
その他	166
<b>負債合計</b>	<b>4,305</b>

## 純資産の部

<b>株主資本</b>	<b>6,531</b>
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	5,773
自己株式	△736
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△341</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>648</b>
<b>純資産合計</b>	<b>6,837</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>11,142</b>

## 連結損益計算書(要旨)―第2四半期累計

<単位: 億円> \*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当第2四半期 (2012年4月1日から 累計(2012年9月30日まで))	前第2四半期 (2011年4月1日から 累計(2011年9月30日まで))	増減率
売上高	3,621	3,191	13.5%
売上原価	2,373	2,008	
<b>売上総利益</b>	<b>1,248</b>	<b>1,182</b>	5.6%
販売費及び一般管理費	744	693	
<b>営業利益</b>	<b>503</b>	<b>489</b>	2.9%
営業外収益	59	63	
営業外費用	26	35	
<b>経常利益</b>	<b>536</b>	<b>516</b>	3.8%
特別利益	2	2	
特別損失	7	11	
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>531</b>	<b>507</b>	4.6%
法人税、住民税及び事業税	201	208	
法人税等調整額	△3	2	
<b>少数株主損益調整前四半期純利益</b>	<b>333</b>	<b>296</b>	12.5%
少数株主利益	16	16	
<b>四半期純利益</b>	<b>317</b>	<b>279</b>	13.3%

## 営業の概況(連結)

当第2四半期連結累計期間における売上高は3,621億円(前年同期比+430億円、13.5%の増収)、営業利益は503億円(前年同期比+14億円、2.9%の増益)、経常利益は536億円(前年同期比+19億円、3.8%の増益)、四半期純利益は317億円(前年同期比+37億円、13.3%の増益)となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における売上高、営業利益、経常利益および四半期純利益はいずれも過去最高を達成することができました。

<参考> ●連結子会社数 180社  
●持分法適用関連会社数 28社  
●1株当たり四半期純利益 145円29銭

# PROFILE

## 会社概要

### セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数（グループ総数）50,757名（2012年4月1日現在）
- 事業内容

1962年、日本初の警備保障会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティシステムを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システムの提供、各種安全商品などの販売を通じて、社会に「安全・安心」を提供しています。

セコムグループは、社会にとって「安全・安心」で、快適で便利なサービスシステムを次々に創造し、それらを統合化・融合化して、トータルな新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指しています。

### 取締役(2012年11月30日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
取締役会長	木村昌平
代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
常務取締役	安齋和明
取締役	原口兼正
取締役	吉田保幸
取締役	中山潤三

### 監査役(2012年11月30日現在)

監査役(常勤)	坂本正治
監査役(常勤)	桑原勝久
監査役(社外)	常松 健
監査役(社外)	山下耕平
監査役(社外)	加藤秀樹

\* 監査役 常松健を独立役員として証券取引所に届け出ております。

### 執行役員(2012年11月30日現在)

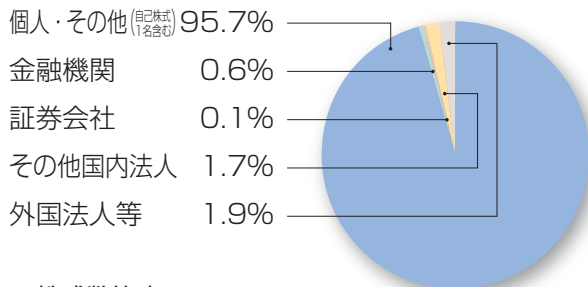
代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
常務取締役	安齋和明
常務執行役員	小河原俊二
常務執行役員	中村直英
取締役	吉田保幸
取締役	中山潤三
執行役員	伊東孝之
執行役員	高岡 実
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
執行役員	小松良平
執行役員	角田幸生
執行役員	竹田正弘
執行役員	吉村輝壽
執行役員	新井啓太郎
執行役員	布施達朗
執行役員	園田博道
執行役員	向井俊之
執行役員	石川 博
執行役員	古川顕一
執行役員	杉本陽一
執行役員	泉田達也

# INFORMATION

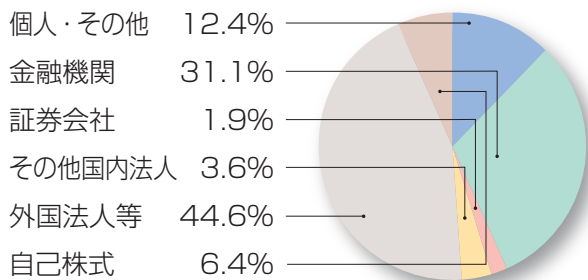
## 株式の状況(2012年9月30日現在)

1. 発行可能株式総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,288,717株
3. 単元株式数 100株
4. 株主数 28,578名
5. 所有者別状況

### ●株主数比率



### ●株式数比率



## 表紙写真のご説明

### セキュア データセンター (東京都)

セコムトラストシステムズ(株)が運営するデータセンター。最高水準の物理的なセキュリティと情報セキュリティ  
でお客様のサーバーを安全に守るとともに、「セコム・サイバー攻撃対策サービス」など多様なサービスも提供。  
セコムグループは(株)アット東京のグループ入りで、国内最大規模のデータセンター事業会社となりました。



## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 上場証券取引所 東京、大阪
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告

<http://www.secom.co.jp/koukoku/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を  
することができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

- 株主名簿管理人 特別口座管理機関  
三菱UFJ信託銀行株式会社

## 株式に関する各種手続きについて

証券会社に口座がある  
株主様は…

▶ 口座がある証券会社へ  
お問い合わせください。

特別口座に記録されている株式の  
株主様は…

▶ 下記の特別口座管理機関  
三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。

未払い配当金のお支払いに関する  
お問い合わせは…

▶ 下記の株主名簿管理人  
三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人:特別口座管理機関 **三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部**

〒137-8081

東京都江東区東砂7丁目10番11号

☎ 0120-232-711 [平日 9:00~17:00]

手続用紙のご請求

☎ 0120-244-479 (音声自動応答)

インターネットからのダウンロード <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および  
植物性インキを使用しています。